

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 林 さえ子

論 文 題 目

前立腺がん治療に伴う性機能障害にまつわる日本人男性の
体験とケアニーズ

論文審査担当者

主 査	名古屋大学教授	玉腰 浩司
	名古屋大学教授	入山 茂美
	名古屋大学教授	佐藤 一樹

論文審査の結果の要旨

前立腺がんは男性で一般的ながんである。治療に伴い生じる性機能障害は、精神的苦痛や抑うつ、ライフスタイルや人間関係と関連し、前立腺がんサバイバーの QOL に影響を及ぼす。日本人の前立腺がんサバイバーは米国人サバイバーと比較して性機能低下は大きい性機能低下による負担感の訴えは少ないという報告があり、性的な問題を公に訴えにくい文化的な影響が推察される。前立腺がんサバイバーの性機能障害に着目した研究は本邦では乏しく、対象の代表性や性機能障害の定義に限界があった。本研究では、前立腺がん治療（手術、外照射療法、小線源治療、ホルモン療法）を受けた患者への半構成的面接調査により、前立腺がん治療に伴う性機能障害にまつわる日本人男性の体験とケアニーズを明らかにした。

本研究では、患者会や医療機関を通じてリクルートした、前立腺がんの初期治療として根治的前立腺全摘除術（10名）/外照射療法（12名）/小線源治療（5名）/ホルモン療法（11名）のいずれかの単独治療を受けた日本人男性を対象に半構成的面接法を行い、前立腺がんの体験とケアニーズについてデータ収集し質的に分析した。

本研究の知見と意義は要約すると以下の通りである。

1. 性機能障害にまつわる体験は、診断期の【前立腺がん初期治療法決定時の性機能維持したい強い気持ちと葛藤】、治療初期の【治療に伴い生じた性機能障害に端を発する価値の喪失】【治療による性機能障害の転帰がわからない不確かさ】【性機能障害の悪影響が少ない平穏】、治療後期の【性機能障害を受け入れる努力】【変化した身体の管理】の6コアカテゴリに統合された。すべての治療法に共通する体験と治療特有の体験があった。
2. 性機能障害に関するケアニーズは、【性機能障害の悩みに寄りそう医療者の姿勢】【性機能障害と対処方法について正確な理解を促す治療方法決定時の情報提供】【個人や各カップルの性機能障害の悩みに対応した専門的なケア】【性機能障害の悩みの解決ができる患者交流の場】の4大カテゴリに統合された。
3. 前立腺がんサバイバーの性機能障害への支援として、性機能障害の悩みに寄りそう医療者の姿勢、専門的なケア、患者交流の場の提供に加えて、診断時には性機能障害と対処法に関する情報提供や考えや感情を共有できる意思決定支援、治療期には性機能障害のアセスメントや多職種による早期介入、などの必要性が示唆された。

本研究は、前立腺がんサバイバーの性機能障害の体験とケアニーズに関する重要な知見を提供した。なお、本研究の主たる内容は、Support Care Cancer 誌 (Impact Factor: 3.603) に掲載された。

以上の理由により、本研究は博士（看護学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	林 さえ子
試験担当者	主査	名古屋大学教授	名古屋大学教授	名古屋大学教授
	玉腰	浩司	入山	茂美
		佐藤	一樹	
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の代表性 (医療に不満の高い集団) 2. 研究知見からの看護への示唆 3. 研究知見からの性教育への示唆 4. 性に関するインタビューでの方法的工夫 5. 対象者の代表性 (治療法の選択基準) 6. 研究知見の外挿 (LGBTQ) 7. 質的研究の方法論 (カテゴリーの信頼性検証方法) <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				